

○ 上がるのは魚だけにしてくれ、という悲痛な叫び

「どうやったらこんなにサクサクに揚がるんですか??」と、お客さんに訊かれることも多い当園のにじますから揚げ。気分によっては「ふふ、それは企業秘密ってやつですね。」と答えることもありますが、実際のところ大した秘密ではありません。要は大量の油で揚げること。たっぷりの油で揚げることで、魚を入れたときの温度の低下を防ぎ一定の温度を保ったまま中まで火を通すことができるというわけです。ちなみに当園のフライヤー（揚げ物専用のコンロ）には約36リットルの油が入ります。ところで春ごろから何度かニュースにもなっているのを耳にした方も多いかと思いますが、食用油の値段がぐんぐんと上がっています。当園で使っている大豆油も春先に比べて倍近くになってきています。値段が上がれば魚もよく揚がる、というわけもなく、身を切られる思いでフライヤーに油を注いでおります。



じっくり揚げること約7分。焦げずにサクサク、がポイントです。

○ 横綱大乃国、よりも気になる力士



玄関わきの展示室にあります。お越しの際はぜひご覧ください。

先日大相撲の「板番付」なるものを寄贈していただきました。本来の板番付は板に直接書かれて会場入口に掲げられるものらしいですが、こちらは入れ替え式で、紙の番付表を入れる形になっています。中に入っているのは昭和62年の九州場所のもので、当園のご近所さん芝田山親方が西の正横綱だったときの番付表です。千代の富士、朝潮、北天佑と懐かしい名前が並んでいますが、当時の私のイチオシ力士はこの番付だと前頭10枚目あたりにいる

「大徹」という力士。何が気になるかといえば、まずはその「もみあげ」。漫画でしか見たことのないような立

派なもみあげがなんとも印象的な風貌でした。そして一時つけていたまわしの色が「黄土色」。一瞬「え、何もつけてない?」と思わせるような、微妙な色でありました。と、相撲以外に注目してしまう大徹関ですが、初土俵以来引退まで一度も休場しなかったというすばらしい記録も持っています。白鵬さーん、聞いてる?



そういえば、高見山のもみあげも立派でしたね。

○ 扇風機旋風、到来

ここ数年、夏場には北海道とは思えない暑さが続くことが多くなりました。我が家の娘たちも学校の教室が暑すぎると文句を言いつつ通っております。夏の教室の風景といえば、かつては下敷きであおぐのが定番でしたが、今はこんなところにもハイテク化が進んでおり、娘の高校ではハンディファンが必須アイテムになっているようです。というわけで、気がつけば我が家にもあるわあるわ小型の扇風機。手で持つものから首にかけるものまで、多種多様な品ぞろえとなっております。さて、ここで新たな問題発生。これらの扇風機は携帯電話と同じケーブルで充電。スマホと扇風機とで電源争いが繰り広げられるのでした。



いっぱい使えばそれだけ涼しい、のか?